

## 異文化体験総合プログラム

### 1. 背景

当社は1994年以来「インドネシアで学ぶインドネシア語及び文化研修プログラム」を運営し、これまで11年間に延べ300名に近い大学・大学院生の方々（一部社会人を含む）の参加を得て参りました。当プログラムは現地の大学にてインドネシア語の現地研修を行うことによりインドネシア語能力を高めるとともに、ホームステイ、文化活動への参加を通じて同国の生活・文化にも触れることによりトータルな観点からの国際感覚を身に付けることを目的とし、その充実した成果により在日インドネシア大使館からの支持を得ると同時に、慶應義塾大学、神田外語大学、日本大学からは公式講座として取り上げられ、参加者には各大学より単位が認定されています。

同プログラムは前述のとおり単に語学の実践的能力を高めるだけでなく、幅広い生活・文化体験による国際感覚の体得に著しい成果をあげて参りましたが、あくまでも語学能力の向上を中心目標とするものであり対象者は原則としてインドネシア語の学習者に限定されております。この度、その成果をさらに強化するためインドネシア地域総合研究、社会活動への実際参加、生活・文化体験を中心にすえ、参加者の対象を国際体験の習得に関心を有する一般の大学・大学院生に広げた新プログラムを、前記語学研修プログラムの実施機関のひとつである東ジャワ州マランクセスワラ大学との協力の下に開始することに致しました。

### 2. 研修プログラムの構成

- (1) インドネシア地域研究
- (2) インドネシア語の基礎知識
- (3) NGOの社会活動への参加
- (4) インドネシア側大学生とのディスカッション

### 3. 時期及び期間

大学の春休み、夏休み期間中の1ヵ月間、年2回の実施

### 4. 内容と特長

#### (1) インドネシア地域研究

インドネシアに関する基礎知識を身に付けるため様々な側面の学習を、クラスルーム講義のみでなく関係施設の現地見学等を行うことによって実際に自分の目で見て肌で感じていただきます。総合的な理解を促進するため、まずマクロ的観点（地理、歴史、社会、政治、教育、宗教、その他）からインドネシアという国家の実態を総合的に学習します。そこでのキーワードは“Bhinneka Tunggal Ika（多様性の中の統一）”であり、世界で稀有にもかかわらず日本人自身には認識の薄い「単一民族・言語国家日本」との対比を浮き彫りにします。それを踏まえた上で今度は一転してミクロ的観点から、インドネシアにおけるある農村での人々の一日を追ってそこでの生活の実際を

学習します。またそれらの総合学習に加えて、いくつかのスペシャル・トピックを取り上げてインドネシアの特徴を個別の角度から考察します。回次によって異なったトピックを取り上げますが、例としては、「インドネシア NGO の活動とその社会経済開発における役割」「イスラム銀行の活動スキームと実績」等を準備しています。

分野	実地見学等の例
国土・地理・民族・言語	-
政治（含 地方自治）	地方議会
社会	都市の人々の暮らし 農村の人々の暮らし
教育	幼稚園 小学校 大学
宗教	モスク ポンドック
歴史	ヒンズー王朝時代の遺跡 国家独立への日本の係わり ・ 映画「ムルデカ」鑑賞 ・ 残留元日本兵 小野 盛さんのお話を聴く会

## （2）インドネシア語の基礎知識

文化の一側面としてのインドネシア語の基礎を学びます。インドネシア語は、時制、動詞語形変化、格変化、単数複数、男性女性（中性）名詞の区別、冠詞、Be 動詞、特殊な発音（表記はアルファベットローマ字読み）等、日本人の外国語学習にとってはネックとなる面倒な要素が一切なく、言語としては異例に、単語さえ覚えれば会話が可能といった初心者には極めて有難い言葉です。ジャカルタ・ジャパンクラブ婦人会がインドネシア駐在の日本人主婦の日常生活のために作成した極めてコンパクトにして有用な日本人向けテキストブック（テキスト部分はわずか 26 ページ）を用いて、インドネシア語入門の講義を受けます。これを基にホームステイ先をはじめ研修期間中のあらゆる機会を捉えて練習に心がければ、研修修了時までにはインドネシア語での人々との会話が十分可能となります。なお、インドネシア語の基礎をすでに習得している参加者に対しては、上記とは別クラスを設けて、より実践的な内容により能力のさらなる向上を図ります。

## （3）NGO 社会活動への参加

上記の基礎理解を踏まえて、NGO の社会活動への参画により、さらに深いインドネシア社会への関わりを実体験していただきます。提携 NGO は多岐にわたりますが、初年度は LPKP (Lembaga Pengkajian Kemasyarakatan dan Pembangunan Jawa Timur = Institute of Society and Development Studies East Java) が行っている農民との協働による農村開発プログラムでの活動に参加していただきます。期間は 1 週間とし、この期間はマランを離れて LPKP のベースキャンプを

拠点にフィールド活動を行い、またそれにはインドネシア側から、日本語専攻のマランクセスワラ大学の大学生が通訳も兼ねて共同参画し、次に述べるディスカッション・セッションでそこでの体験を基にして、様々な問題点について様々な側面からの討議を行います。

#### (4) インドネシア側大学生とのフリー・ディスカッション

当研修はインドネシアに対する知識を様々な角度から深めることを通じて国際感覚を身に付けることにありますが、それが真の意味で地に足のついたものになるためには、自国であるわが国日本にしっかりと軸足を置いたものの考え方を基礎にするものであることが大切であり、それには日本を出て一時外国の社会の一員となり、外部の視点から日本、ひいては自分自身を見直してみることなしには達成できない、というのが当社の信念です。そのために、これまでの勉強・体験で身に付けた見方を基に、インドネシア側の人々（一緒に働いた大学生のほかに先生方も話し合いに参加します）と、なぜ日本はインドネシアと違うのか、といった視点を踏まえてフリー・ディスカッションを行って、当研修の締めくくりとします。

### 5. 使用言語及び講師

当研修プログラムは語学能力養成を主眼とするものではありませんので、相互コミュニケーションの円滑化を図るため使用言語は基本的に日本語とし、一部のインドネシア語での講義、ディスカッション等においては日本語への通訳をいたします。

日本語での講義及び通訳にはマランクセスワラ大学の次の講師があたります。

#### Ms. Daysi Prasetyani (デシ・プラスティヤニ)

マランクセスワラ大学講師  
筑波大学卒業（専攻：政治学）

### 6. 宿泊滞在先

上記の趣旨より、マラン市滞在中はインドネシアの一員になって生活していただくため、一般家庭に滞在します。ホームステイ先は一定の基準のもとに大学側で厳選し、また英語でのコミュニケーションが可能な家庭に限っています。

### 7. 文化活動体験

希望者には、ジャワ舞踊、プンチャック・シラット、バティック制作、ガムラン音楽、インドネシア料理等の実習にも参加いただけます。